

# 未来の企業成長を支える！ 三菱重工とメルカリに学ぶ グローバル人材育成と言語教育の取り組み ～自ら学び続ける文化を醸成するための人事施策～

今、言語教育に力を入れる企業が増えています。特にグローバル展開を進める企業や多国籍な人材を登用する企業にとって、充実した言語教育の機会提供は、社員ひいては企業全体の成長に寄与することが期待されます。一方、言語教育への姿勢は企業によってそれぞれ異なります。そこで、言語教育に力を入れている企業を代表し、三菱重工業株式会社の布袋 悠介氏と株式会社メルカリの親松 雅代氏に両社の言語教育について伺いました。

## 運用のポイント:

- ✓ 変化を見据えた学習機会の提供: 事業環境や業務内容などの変化に対応できる学習環境を整える
- ✓ 人材育成施策の一環としての言語教育: 事業・人材のグローバル化に伴い、企業として言語教育機会の提供は今後必須となる
- ✓ 歩み寄りのコミュニケーション: その言語を母語としない人に合わせた表現・伝え方をする土台の構築

## パネリスト(登壇者):



**布袋 悠介 氏**  
三菱重工業株式会社  
HR戦略部 次長 兼 人材開発グループ長



**親松 雅代 氏**  
株式会社メルカリ  
Language Education Team (LET)

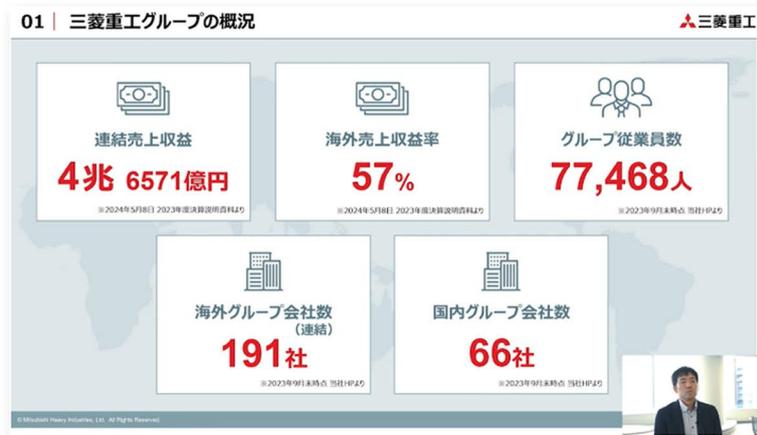
## ファシリテーター:



**加藤 遼平**  
goFLUENT株式会社  
Senior Account Executive

# 重要度が増す言語教育。背景に製品や人材の多様性

布袋氏: 三菱重工グループは、海外売上収益率57%・海外グループ会社数191社に上るグローバル企業です(2023年度時点)。また事業分野も多岐に渡り、発電プラントやロケット、船舶、戦闘機など、陸・海・空・宇宙のあらゆる領域で製品を展開しています。グローバルに事業を展開するには勿論、語学力とコミュニケーション力が必要です。事業・製品によっては日本語だけで業務が完結することもあります。異動によっていつ外国語でのコミュニケーションが必要になるかは分かりません。そのため、主な共通言語である英語を中心とした全社的な語学力の底上げは重要なテーマだと考えています。



加藤: 三菱重工業株式会社(以下、三菱重工)さんにとって語学力は、多くの社員に求められる可能性が高いスキルの1つなのですね。  
株式会社メルカリ(以下、メルカリ)さんのお話も伺いたと思います。言語教育が重要だと考える理由は何でしょうか。

親松氏: フリマアプリ「メルカリ」を運営している当社では、グループミッションとして「あらゆる価値を循環させ、あらゆる人の可能性を広げる」を掲げています。このミッションの達成のため、私たちは世界中の人々に「メルカリ」を使っていたきたいと考えています。

ただし、それを実現するためには当社自身が世界中から人材を獲得し、多様性を持たなければいけません。多様な人材が多彩なスキルを活かして、より良いサービスを開発・展開していく必要があります。そのため英語あるいは日本語スキルの向上は、当社のミッション達成に不可欠だと考えています。

グループミッション

あらゆる価値を循環させ、あらゆる人の可能性を広げる

"Circulate all forms of value to unleash the potential in all people"

6

# 「ランゲージ・アカデミー」導入ポイントの1つが多言語対応

加藤: 三菱重工さんでは人材育成方針を制定されたと聞きました。同方針について教えていただけますか？

布袋氏: 当グループでは社会課題や事業環境、そして社員一人ひとりの働く意識は絶えず変化することを前提として、人材育成の基本的な考え方を示す「三菱重工グループ人材育成方針」を制定しました。この方針のポイントは次の2つです。

- 三菱重工グループが大切にしている価値観として「自律」「協働」「挑戦」を定義
- 人材育成にあたり社員・上司・会社それぞれの役割を明確化

この2つと言語教育は密接に関連しています。例えば、会社の役割として「成長できる機会を積極的に提供する」という旨を明記していますが、これはまさに「語学を学びたい」という挑戦心を持った社員に対して、当グループとして言語教育の機会を提供している大きなバックグラウンドになります。



加藤: そんな三菱重工さんがgoFLUENTの英語学習プログラム「ランゲージ・アカデミー」を言語教育ツールとして選ばれた理由は何でしょうか。

布袋氏: 2点あります。1つ目が多言語に対応している点です。ランゲージ・アカデミーで学習できる言語は16言語、表示言語は26言語にも上ります。先ほど述べた通り、当グループの海外グループ会社は191社あります。英語がメインになるとはいえ、将来的には他の言語の需要も高まる可能性を考慮すると、多言語に対応している点は非常に魅力的に感じました。

2つ目が単にレクチャーを受けて語学を学ぶだけでなく、語学を使って自らコミュニケーションを取る姿勢を育てるプログラムを提供している点です。一部社員からは「語学を実際に使える機会が増えて嬉しい」という声もあり、その声に応えられる点もポイントでした。

## 母語話者と学習者の双方が歩み寄るメルカリの「やさしいコミュニケーション」

加藤: メルカリさんの言語教育の取り組みについて教えていただけますか。

親松氏: 当社の言語教育専門のチーム「Language Education Team」では、主に次の3つの柱を重視して、言語教育に取り組んでいます。

英語教育

日本語教育

やさしいコミュニケーション

世界50カ国(2024年7月現在)以上の多様なバックグラウンドを持つ社員が働くメルカリグループにおいて、英語教育のみならず、日本語を母語としない社員が日本で生活する上で必須な日本語教育にも力を入れています。

## Language Education Teamの3つの取り組み



英語教育

やさしい  
コミュニケーション

日本語教育



2

**加藤:**「やさしいコミュニケーション」とは何でしょうか。

**親松氏:** 当社では社内公用語の制定はしていませんが、普段の業務では日本語と英語が使われています。その中で、「やさしいコミュニケーション」とは英語が母語ではない社員と日本語が母語ではない社員、日英どちらであっても相手にとって分かりやすい表現・伝え方でコミュニケーションを取りましょうという意味が込められています。

私たちは「英語力・日本語力がないから意見が言えないし、相手の意見も理解ができない」という状況を決して作るべきではありません。誰でも自分の意見を安心して主張ができる環境を整えるためにも、互いに歩み寄る「やさしいコミュニケーション」を大事にしています。

**加藤:** 素晴らしい考え方ですね。メルカリさんの“英語教育”の取り組みについても教えてください。

**親松氏:** 英語学習者には、言語の運用能力を測る国際指標である「CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)」において「B2」というレベルを目指してもらっています。B2レベルの人は、どのように言語を使用できる状態にあるかという、メルカリでは特に次の2つのことを重視しています。

- 複数名のミーティングで、自身の専門分野のトピックであれば、参加メンバーの議論の大部分についていける
- 自分の意見を言語の限界を理由に我慢せずに伝えられる

当社としては、自分の言葉でコミュニケーションを取れるようになってもらうためにも、社員にはこのB2レベルの行動ができるようになることを目指して欲しいと考えています。

一方で、B2に達したとしても完璧に英語を話せるというわけではありません。B2の人でも、SlackやEメールのテキストメッセージをすぐに理解することは難しく、文法や語彙の間違いもたくさんします。だからこそ、先ほど述べたやさしいコミュニケーションの実践が生きてきます。

# 人材育成方針で言語教育に注力する理由

**加藤:** 最後に、三菱重工さんが言語教育に力を入れている理由を教えてください。

**布袋氏:** 重複しますが、グローバルに事業を展開する当グループにとって言語教育は、業務上の必要性が高い点が挙げられます。

また、変化する社会課題や事業環境に応じて、自ら学習に取り組みたい人向けに様々なチャレンジを促すプラットフォームを提供しています。goFLUENTのランゲージ・アカデミーもその中で欠かせないプラットフォームの1つです。人材育成方針の推進という面でも言語教育には注力しています。

**加藤:** 言語教育の機会提供は、三菱重工さんが大切にしている価値観、「挑戦」や「自律」などを促す施策でもあるんですね。一方、メルカリさんが言語教育に力を入れている理由は何でしょうか。

**親松氏:** 社員ひとり一人が持つ、メルカリで挑戦したいことや実現したいことに対して、言語能力の高低が壁になってしまうのは望ましくありません。それはその人の可能性を狭めてしまっていることにもなります。また当社には「言語を使って自分の挑戦領域を広げたい」と考えている社員も多くいます。

こうした背景があり、当社では社員の可能性を広げるためにも、引き続き言語教育には力を入れていきたいと考えています。

## 最後に

両社のように、事業のグローバル展開や人材の多様化が進む日本企業において、今後、言語教育の重要性は今以上に増していくことでしょう。引き続き、goFLUENT株式会社では、ミッション「全ての人々に等しい声を (Provide Everyone an Equal Voice)」の実現に向け、継続的なサービスの改善を行い、企業の人材育成をサポートしていきます。

## 対談企業プロフィール:

### 三菱重工業株式会社

所在地: 東京都千代田区丸の内三丁目2番3号  
事業内容: エナジー、プラント・インフラ、物流  
・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙  
<https://www.mhi.com/jp>

### 株式会社メルカリ

所在地: 東京都港区六本木6-10-1六本木ヒルズ森タワー  
事業内容: フリマアプリ「メルカリ」の企画・開発・運用  
<https://about.mercari.com/>

## お問い合わせ

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町  
3-4-7 三勝ビル3  
03-6868-0650  
[japan@gofluent.com](mailto:japan@gofluent.com)

## goFLUENT について

goFLUENTは、テクノロジー、コンテンツ、ヒューマンインタラクションを融合させハイパー・パーソナライズされたソリューションを提供することで、2,000を超える企業に語学学習とアセスメントを加速させ、自信、成長、インクルージョンに必要な語学スキルを育成しています。

詳細については、<<http://www.gofluent.com>> をご覧ください。